特定非営利活動法人監修　二千二十一年　五月号（毎月発行予定）

NPO SalamatA



かみきたチャリティーマルシェ

Salamatありがとう Letter

国際支援と野菜のコラボ　コロナ禍でも続けたい

SalamatAってなんだ

NPO SalamatAは、日本大学文理学部国際ボランティアSalamatAの卒業生が中心となって設立した若者活動支援を目的としたNPOです。Salamatはタガログ語で「ありがとう」の意味、Aは日本語の「ARIGATO」でもあり、action（行動）、active(意欲的で接触的)などの意味もこめ二〇〇七年に学生国際ボランティアの活動として命名されました。学生たちは、二〇〇六年から活動を始めて、その卒業生が二〇一九年に特定非営利活動法人化しています。

NPO化した目的は、卒業後も関わりながらフィリピンの経済的に困窮する大学生支援のための奨学金への寄与や大学生や高校生が現地を訪問して交流する活動の支援をすることです。コロナ禍のいま資金集めの主力である大学生の活動が制限され、フィリピン大学生の奨学金資金集めが頓挫しつつありますので、かみきたチャリティーマルシェに参加をして奨学資金を得ようとしています。

毎年夏に訪問して、フィリピンの小学生や大学生との交流もして、経済支援だけでなく学生同士の交流も大きな目的です。この交流に福音寮の高校生（希望した高校生）も参加をしてくれていて、大学生と一緒に現地で交流をしています。

これからも高校生大学生の国際交流として続けたいです。





野菜ので国際貢献　　コロナに負けず野菜でつながる

かみきたチャリティーマルシェでは、SalamatAは茨城の鈴木農園の新鮮な野菜を販売をして、その利益をフィリピン大学生Agape奨学金（愛の奨学金）に寄贈するように頑張っています。

鈴木農園さんとは、若者の自殺防止のためのミュージカルを主宰する米田さんが繋いでくれて実現しています。フィリピンで我々の関わる支援団体ShorelineKKIも、日本から伝わった有機農法の啓発活動を行っており、エコファームを運営する鈴木農園さんとのつながりは日比の心もつなぐコラボとなりました。

鈴木農園では、わずかな出会いからの期間にもかかわらず将来フィリピンで農場経営を目指し方にも出会っていますし、その方を通じて埼玉県でユースサポートをしている社会的養護の当事者にもつながるなどし、コラボの力はすごいと感じています。

新鮮野菜をチャリティーで奨学生90名の奨学資金200万円！

できた野菜をトラクターでつぶさざる得ないコロナ禍での農家。少しでそんな農家のお手伝いが出来ないかとSalamatAは野菜を購入して輸送を担い、寄付金を上乗せしたチャリティー価格でマルシェで販売しています。全部売れて利益が生じるくらいですが、今はまだ多くのを福音寮に無理やり寄付をしている状態。はやく全部売り切ってWinWinの関係になりたい。なので応援（野菜を買って！）を！！

